

<<感动你一生的日文>>

图书基本信息

书名：<<感动你一生的日文>>

13位ISBN编号：9787801442680

10位ISBN编号：7801442687

出版时间：2006-8

出版时间：中国宇航出版社

作者：寇祺明

页数：272

字数：194000

版权说明：本站所提供下载的PDF图书仅提供预览和简介，请支持正版图书。

更多资源请访问：<http://www.tushu007.com>

## <<感动你一生的日文>>

### 内容概要

本套丛书共三个分册，即《感动你一生的日文——爱与人生》，《感动你一生的日文——经典美文》，《感动你一生的日文——杂文百感》。

其中《爱与人生》多节选于日本小说与散文，讲述的是爱与人生的哲学与思想，或许能让您有所感悟；《经典美文》多节选自世界文学名著的日文版，从中你可以发现很多已被您熟知的篇章；《杂文百感》多选自各种杂文、小品文，清新别致，读来或许令您别有一番体味。

本套丛书所收篇目均为脍炙人口的名篇佳作和时下流行的文学作品。

无论是大地风物的描绘还是社会生活的写照，无论是时代声音的记录还是人生情感的抒写，可让您获得一些愉悦和美的享受；可让您在一种优美的语言交融中不知不觉地体会到日语水平的提升和长进；让您的一天沉浸在美好的语言韵律中；让您刚刚读过的优美篇章、精彩句子在慢慢积累、消化、吸收中，成为自己的知识。

其中，《经典美文》中多节选自世界文学名著的日文版，从中你可以发现很多已被您熟知的篇章。

## &lt;&lt;感动你一生的日文&gt;&gt;

## 书籍目录

1?羅生門 罗生門2?孔乙己 孔乙己3?マッチ売りの少女(一) 卖火柴的小女孩(一) 4?マッチ売りの少女(二) 卖火柴的小女孩(二) 5?マッチ売りの少女(三) 卖火柴的小女孩(三) 6?浦島太郎(一) 浦島太郎(一) 7?浦島太郎(二) 浦島太郎(二) 8?ボヴァリー夫人(一) 包法利夫人(一) 9?ボヴァリー夫人(二) 包法利夫人(二) 10?三匹の子ぶたのお話(一) 三只小猪的故事(一) 11?三匹の子ぶたのお話(二) 三只小猪的故事(二) 12?盗んだ書類 被窃的文件 13?ジェイン・エア(一) 简爱(一) 14?ジェイン・エア(二) 简爱(二) 15?チャタレイ夫人の恋人(一) 查太莱夫人的情人(一) 16?チャタレイ夫人の恋人(二) 查太莱夫人的情人(二) 17?チャタレイ夫人の恋人(三) 查太莱夫人的情人(三) 18?ボヘミアの醜聞 波希米亚丑闻 19?罪と罰 罪与罚 20?セロ弾きのゴーシュ 弹大提琴的高修 21?ノルウェーの森(一) 挪威的森林(一) 22?ノルウェーの森(二) 挪威的森林(二) 23?ノルウェーの森(三) 挪威的森林(三) 24?ノルウェーの森(四) 挪威的森林(四) 25?世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド 世界尽头与冷酷仙境 26?脂肪の塊(一) 羊脂球(一) 27?脂肪の塊(二) 羊脂球(二) 28?魔の沼(一) 魔沼(一) 29?魔の沼(二) 魔沼(二) 30?スカーレット・レター(緋文字) 红字 31?青ひげ 蓝胡子 32?気球旅行の五週間 气球旅行五星期 33?三四郎 三四郎 34?小さき者へ 给孩子们 35?ダロウェイ夫人 达洛卫夫人 36?高慢と偏見 傲慢与偏见 37?水仙月の四日 水仙月四日 38?二都物語 双城记 39?夢十夜・第三夜(一) 梦十夜・第三夜(一) 40?夢十夜・第三夜(二) 梦十夜・第三夜(二) 41?オリヴァ・トウイスト 雾都孤儿 42?黒いチューリップ(一) 黑郁金香(一) 43?黒いチューリップ(二) 黑郁金香(二) 44?王妃マルゴ 玛戈王后 45?詩集ギタンジャリ(一) 诗集・吉檀迦利(一) 46?詩集ギタンジャリ(二) 诗集・吉檀迦利(二) 47?凧(一) 风筝(一) 48?凧(二) 风筝(二)

## &lt;&lt;感动你一生的日文&gt;&gt;

## 章节摘录

书摘 世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド私のポケットの中で指を動かすのを中断して扉の外に目をやった。

扉の外にはろうかがあり、廊下には女が立っていた。

太った若い女で、ピンクのスーツを着込み、ピンクのハイヒートをはいていた。

スーツは仕立ての良いつるつるとした生地で、彼女の顔もそれと同じくらいつるつるしていた。

女は私の顔をしばらく確認するように眺めてから、私に向かってこっくりと頷いた。

どうやらという合図らしかった。

私は小銭の勘定をあきらめて両手をポケットから出し、エレベーターの外に出た。

私が外に出ると、それを待ち受けていたかのように私の背後でエレベーターの扉が閉まった。

廊下に立ってまわりをぐるりと見回してみだが、私のおかれた状況について何かを示唆してくれそうなものはひとつとして見あたらなかった。

私にわかったのは、それがビルの内部の廊下であるらしいということだけだったが、そんなことは小学生にだってわかる。

それはともかく異様なくらいのっぺりとした内装のビルだった。

私の乗ってきたエレベーターと同じように、使ってある材質は高級なのだがとりかかりというものが無いのだ。

床はきれいに磨き上げられた光沢のある大理石で、壁は私が毎朝食べているマフィンのような黄味が買った白だった。

廊下の両側にはがっしりとして重みのある木製のドアが並び、そのそれぞれには部屋番号を示す金属のプレートがついていたが、その番号は不揃いで出鱈目だった。

936のとなりが1213でその次が26になっている。

そんな無茶苦茶な部屋の並び方ってない。

何かが狂っているのだ。

若い女はほとんど口をきかなかった。

女は私に向かって「こちらへどうぞ」といったが、それは彼女の唇がそういう形に動いただけのことであって、音声は出でこなかった。

私はこの仕事に就く以前に、二ヶ月ばかり読唇術の講座に通っていたから、彼女の言っていることを何とか理解することができたのだ。

はじめのうち、私は自分の耳がどうかしてしまったのかと思った。

エレベーターが無音だったり、咳払いや口笛がうまく響かなかったりで、音響について私はすっかり弱気になってしまっていたのだ。

私はためしに咳払いを試してみた。

咳払いの音は相変わらずこそこそしてはいたが、それでもエレベーターの中で咳払いしたときよりはずっとまともに響いた。

それで私はほっとして、自分の耳に対していくぶん自信を取り戻すことができた。

大丈夫私の耳がどうかしてしまったというわけではないのだ。

私の耳はまともで、問題があるのは女の口の方なのだ。

私は女のあとをついて歩いた。

尖ったハイヒールのかかどが、カツカツという昼下がりの石切の場のような音を立てて、がらんとした廊下に響いた。

ストッキングにつつまれた女のふくらはぎ画大理石にくっきり映っていた。

女はむっくりと太っていた。

若くて美人なのだけれど、それにもかかわらず女は太っていた。

若くて美しい女が太っているというのは、何かしら奇妙なものだった。

私は彼女野後ろを歩きながら、彼女の首や腕や脚をずっと眺めていた。

<<感动你一生的日文>>

彼女の体にはまるで夜のあいだに大量の無音の雪が降ったみたいに、たっぷりと肉がついていた。

<<感动你一生的日文>>

版权说明

本站所提供下载的PDF图书仅提供预览和简介，请支持正版图书。

更多资源请访问:<http://www.tushu007.com>